

PLMパッケージを 99%標準機能で利用 業務とのギャップを 埋めるためにRPAを導入

azbil



AUTOMATION
ANYWHERE[®]
Go be great.

組織の概要

アズビルは、1906年に創業した大手制御・計測機器メーカー。「ビルディングオートメーション」「アドバンスオートメーション」「ライフオートメーション」を柱に事業を展開。グローバルでライフサイクル型事業を強化しながら、新たなオートメーション領域の開拓、環境・エネルギー分野の事業拡大に取り組んでいます。

課題 PLMシステムと業務のギャップ解消を目指す

アズビルは、製品の設計図や部品表のデータを企画段階から廃棄に至るまでの全行程で共有・管理することを目的に、PLMパッケージ「Windchill」を2017年5月に導入。カスタマイズ費用とバージョンアップの検証作業を最小限に抑えるために、標準機能利用率99%で運用し、それに合わせた業務の見直しを行うことで標準化に取り組んでいます。

しかし、ほぼWindchillの標準機能のため、業務とのギャップが生じ、ユーザーの作業効率が低下する課題を抱えるようになったといえます。

ソリューション 決め手は複雑なインターフェースへの対応

最初にExcelファイルによる申請書ベースで行っているPLMシステムの管理業務を改善することにしましたが、ExcelマクロではWebアプリケーションであるWindchillを直接操作できません。また、独自のシステムを開発するにはコストがかかります。そういった状況の中、取引先ベンダーから紹介されたのが、RPAでした。技術標準部は、複数のRPAツールの比較・検証を開始しました。Windchillのインターフェースが複雑なため、ほとんどのRPAツールが処理できず、唯一自在に操作できたのがAutomation Anywhereでした。これが決め手となり、2018年5月に導入を決定しました。

メリット

5 か月 20^{Bot} 200^{時間}

本番稼働開始からの効果

99.0%

PLMパッケージ標準機能利用率

0

入力ミスの発生件数

自動化されたプロセス
・PLMシステムに関連する業務

業界
製造

「パッケージの標準機能
利用率99%でPLMシス
テムを運用するために業
務を見直しました。ほと
んどのRPAツールでは処
理できない中、唯一自在
に操作できたのが
Automation Anywhere
でした」



— アズビル株式会社
技術標準部 部長
加藤 誠司氏

詳細 RPA適用を前に業務を見直して単純化を図る

Automation Anywhereを導入することにした技術標準部は、まずは部署内で部分的に導入し、どの程度まで使えるのかという検証を重ねました。その結果、PLMシステムの管理業務以外の入力作業も、RPAで自動化できることがわかりました。これを受け、パッケージと業務とのギャップを埋めるツールとして、RPAを本格的に展開することになりました。

RPAを業務に適用するにあたり、技術標準部はもう一度業務プロセスを見直すことにしました。属人化された業務をそのままBot化することは難しいため、業務を単純化することにしたのです。また、アプリケーションの不具合やネットワークの遅延によってBotが止まったときの対策として、再実行できるようにBotを設計しました。

一方、社内のガバナンスを効かせるために、業務システム部と協力してRPAの利用に関するルール作りにも着手します。RPAの利用に関するガイドラインを策定することにし、現在は正式版の発行に向けて調整を進めています。

結果 導入5カ月で20Bot約200時間の削減効果

RPAを効果的に利用することが可能になったアズビルでは現在、PLMシステムのユーザー登録・削除、登録情報の閲覧許可、変更開始ワークフロー、変更実施ワークフローといった業務に20以上のBotを活用しています。

RPAを適用した結果、人手で行っていたときに比べて処理にかかる時間を5分の1から半分程度まで削減するという効果が得られました。本番運用を開始した2018年11月から年度末の2019年3月までの5カ月間の効果を棚卸ししたところ、トータルで約200時間の削減効果が得られています。また、従来はしばしば発生していた入力ミスもゼロになったと言います。

今後の展望 PLMシステム以外の業務への適用を視野に

PLMシステムの業務効率が向上したアズビルでは今後、他部門への水平展開も視野に入れていきます。現在は技術標準部とIT部門、事業部門がタスクチームを組織し、RPAの全社導入の可能性を模索しています。RPAの導入によって業務品質が向上することが確認できたことから、今後は計画的にPLMシステム以外の業務にもRPAの適用を進め、さらなる業務品質の向上を目指していきたいと考えているそうです。

「本番運用の開始から5カ月間トータルで約200時間の業務時間削減効果が得られ、入力ミスもゼロになりました。年末など、特定の時期に集中していた時間外労働がなくなり、業務の負荷変動をBotが吸収してくれていると思います」




— アズビル株式会社
技術標準部
技術標準グループ
課長代理
三島 崇氏

Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 www.facebook.com/AutomationAnywhJP

 contact_japan@automationanywhere.com

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。